

## 表紙写真について

作品：月岡耕漁「能楽百番 現在七面」<sup>つきおかこうぎょ のうがくひゃくばん げんざいしちめん</sup> 大正11～14 (1922～25) 年頃 木版画多色 37.9×25.6 cm  
城西国際大学水田美術館所蔵

本学水田美術館所蔵作品のうちから、房総出身の高僧・日蓮ゆかりの絵画として月岡耕漁 (1869～1927) 「能楽百番 現在七面」を表紙に選んだ。「現在七面」は身延山に籠居修行中の日蓮上人らしき高僧の前に里女の姿で現れた七面山の池に棲む老蛇が、「法華経」の功德によって龍女となり神楽を舞うという筋である。絵はそのハイライト、後シテが蛇身から天女へと早替わりをする直前を描く。この早替わりは、シテが二つの面と装束をいずれも重ねてつけておき、舞台上行う、能においては極めて珍しい劇的な演出である。そのためもあって、本曲は現在では観世流と金剛流にのみ伝わり上演される機会も少ない。

「能楽百番」は、能舞台を描く「能画」で知られる耕漁の代表作の一つで、百二十枚百図からなる。写真印刷の台頭などによる浮世絵版画衰退を巻き返す狙い、耕漁自身の能への関心、当時の能楽隆盛が結びついて生まれた能画は、良質な紙に贅沢な絵の具を用い、水彩画のような表現を実現するなど木版技術の粋を尽くして制作された。本図も、墨の濃淡と柱のわずかな輪郭線で巧みに舞台を設定し、安定した構図のうちに、多色で華やかに衣、般若の面、白頭に大龍戴の後シテの姿を浮かび上がらせる。衣装や龍戴に施された濃淡も微妙な塗り分けなど筆彩色かと思まごう高度な技術もみどころである。なお、日蓮が登場する謡曲には他に「鶴飼」、「身延」がある。(門脇)

参考文献：『(展覧会図録) 近代の能画家 月岡耕漁展』(城西国際大学水田美術館 2005年)

『能・狂言事典』(西野春雄、羽田昶編 平凡社 1999年)。

---

発行日 2008年1月31日  
城西国際大学  
日本研究センター紀要 第2号

発行所 〒283-8555 千葉県東金市求名1番地  
城西国際大学 日本研究センター  
TEL 0475-55-8800 (代表)  
日本研究センター URL <http://www.jiu.ac.jp/japan/>

編集 日本研究センター刊行物編集委員会

発行者 水田宗子

印刷所 株式会社 正文社  
〒260-0001 千葉県千葉市中央区都町1-10-6  
TEL 043-233-2235

---